

# 鳥取の民話

6

収録・解説 酒井董美

語り手 河場敏雄さん

(大正15年生まれ)

平成7年11月18日収録

あらすじ

昔、粟島の里に漁師たちが講をした。一人がトイレに行き、料理場を見たら、えたいの知れぬものを料理している。「たいへんなものを料理しちよる。出しても食べるな」と話していた。

案の定、その料理が出たので「あんなもん食べちゃあ、ろくなことはない」と家へ持って帰らずに途中でみんな捨ててしまったが、一人の酔っぱらった漁師が、捨てることを忘れてわが家へ持って帰った。戸棚へ入れておいたら、その娘さんが、その馳走を食べて

## 八百比丘尼

(米子市彦名)



イラスト・福本隆男

## 終生住んだ粟島神社洞穴

寂したそうな。いわゆる八百比丘(尼)さんが、終生住んだというのはあの洞穴だと聞いております。

解説

公となっている。

それが人魚の肉で、食べた娘さんは、八百年まで長生きし、晩年は、粟島神社の洞穴に入って入説話としてまず思い出さ

れるのが、異界の理想の国である竜宮城へ招待された浦島太郎であろう。そして、男性が主人公であるこの浦島太郎に対して、こちらは女性が主人公となっている。また「昔あるところに」で始まる浦島太郎は、説話の種類では昔話であるが、この比丘尼の話は、

米子市の粟島というよう方に(新潟、富山、石川、福井、岐阜、愛知、山梨、長野、近畿地方(三重、京都、和歌山、兵庫)、中国地方(鳥取、島根、岡山、広島)、四国地方(香川、高知)、九州地方(福岡、熊本)となっている。一方、伝承の未発見の道、東北地方(青森、岩手、宮城、秋田、山形)、中部地方(茨城)、近畿地方(静岡)、近畿地方(滋賀、大阪、奈良)、中国地方(山口)、四国地方(徳島、愛媛)、九州地方(佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)出現してきたのがこの八百比丘尼伝説だと思われる。

また島根県浜田市、京都府丹後町、岡山県浅口市、郡金光町には、同じ内容でありながら、千年生きたとされる千年比丘尼伝説が存在している。方(福島)、関東地方(栃木、群馬、埼玉、千葉、(元鳥取短期大学教授)東京、神奈川)、中部地方(水曜日に掲載)